

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めのユニット会議で、理念の説明をおこなっている。その理念をもとに、各ユニットごとに短期目標を掲げ取り組んでいる。毎月のユニット会議で実践状況を確認している。	日頃より事業所理念に沿った達成可能な短期目標を管理者と職員で話し合い、日々のケアに取り組んでいる。各ユニット内には理念が掲示され、常に職員の目に触れることにより、日々の実践の中で大切にされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者が散歩をすると挨拶を交わしたり、花や季節の野菜などを頂いている。また地域の行事にも参加したり、施設行事に来園して頂いている。町内会費を納入し、回覧物が配布されたり回覧をお願いしている。	事業所の納涼会や秋楽祭は地域の協力と交流を大切に実施され、多くの地域の人々の繋がりを広めている。また戸外散歩をすると、近隣に住む人達から声を掛けられ野菜や花などを頂いたり、合鴨農法の田園を觀賞するなど地域とふれあう機会は多いものとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元中学生などの体験学習やボランティア活動の受け入れを行っている。地域の方に介護予防拠点を開放し、体力づくり支援センターの『高齢者に対する運動』などに使用してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回は開催し、事業実施状況等を報告したり、行事の予定などお知らせしている。事業所サービスへの要望や助言を伺ったり、ボランティアのお誘いなども行っている。	運営推進会議は定期的開催されており、事業実施状況や活動報告、さらには事故報告と対策等の報告がなされ、委員からは、それらについて意見やアドバイスをもらっている。また、地域のボランティアの紹介など情報交換も行われ運営に活かされている。	定期的な運営推進会議は夜間に行われているが、その中で、利用者一人ひとりの状態を身近に感じ、状況を把握することは難しい現状もある。今後も地域の理解と支援を深めながら、運営推進会議が事業所の運営の要となり、より質の高いサービスに反映、提供できるように工夫していかれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括の職員から毎回参加してもらっている。意見やアドバイスを頂き、現状を聞かせて頂いている。	運営推進会議に市の担当者は出席していないが、地域包括の職員から毎回出席してもらっている。定期的に事業所の活動状況を報告した上で意見やアドバイスをもらい協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の研修会に参加している。全員の参加は無理がある為、ユニット会議で復命研修を行っている。身体拘束は行っていない。玄関やベランダは施錠していない。	利用者の人格を尊重しながら、一人ひとりの思いに寄り添ったケアが実践されている。また言葉のかけ方に関しては、声を掛け合い注意し合う体制が整っている。法人内の研修にも参加し意識統一が図られている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修会に参加している。全員の参加は無理がある為、ユニット会議で復命研修を行っている。言葉遣いには十分注意し合い虐待防止に努めている。	法人内の研修で高齢者虐待防止関連法について学んでいる。参加できなかった職員には、ユニット会議で復命研修を行い共通認識に努めている。管理者も現場で実務を行っているので利用者の様子などを注意深く見守っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修会に参加している。全員の参加は無理がある為、ユニット会議で復命研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に施設見学に来られた際に契約書や重要事項説明書の説明をしている。自宅訪問もさせて頂き、居室のレイアウトに役立っている。契約の際は更に詳しく説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情窓口設置の説明を行っている。ケアプラン作成時や面会や電話連絡時など、要望や意見を伺っている。事例についてはユニット会議等で情報を共用し、検討をしている。	意見箱は設置されているが中々利用されていない現状があり、日頃の面会やケアプラン作成・電話連絡時などから利用者、家族の声を汲み取れるよう心がけている。また、要望に対応するため、その内容を検討しながら運営に反映できるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からは毎月全員参加のユニット会議や人事考課面接の機会に意見を聞くようにしている。様々な意見は毎月1回の事業会議で報告し、その内容はユニット会議で職員に伝えている。	毎月、全員参加のユニット会議が行われる時は、隣のユニット職員が入り利用者の生活に寄り添っている。また、職員の意見である「利用者に寄り添い個別の外出をしたい」という想いを反映する為、日頃の業務を見直し、必要がなかった部分を省くことで利用者との「ふれあい」の時間を作り出すことに結び付けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の定める就業規則や給与規定等に基づいて運営している。人事考課制度に取り組み、自己目標を掲げ、やりがいや向上心を持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内や法人での研修は定期的実施され、職員は参加している。その後ユニット会議で、参加できなかった職員の為に復命研修を行っている。また、新人職員には法人で指導や助言を行う等のサポートをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新潟県認知症高齢者グループホーム協議会や魚沼地域グループホーム連絡会などの研修会などに参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から各種機関から情報をもらい、事前面接ではご本人の意向を時間をかけて伺っている。なるべく施設見学にも来て頂き、不安に思ふような事は丁寧に説明し、安心して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設側からの一方的な説明にとどまらず、ご家族の不安や要望などの理解に努めている。しっかり話し合い、ご家族から安心して頂けるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅介護支援事業所やご家族から情報収集を行い、入居検討委員会でグループホームへの入居が適切か検討をしている。ご本人・ご家族の意向を伺い、適切なケアを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や洗濯干し、洗濯たたみ等出来る事と出来ない事を見極め、ご本人の意思を確認しながら職員と共に仕事を行っている。入居者同士や職員との会話を含め、お互いの意思を尊重した対応を心掛けている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日用品の補充や病院受診などをご家族にお願いしている。ご家族の面会の際は、日々の様子を報告したり相談をさせて頂いている。毎月1回、体調や施設での様子を手紙で連絡している。	月1回は本人の様子を手紙で連絡するとともに、面会時は本人と家族の潤滑油になるよう、こまめな報告・相談を心掛けて協力関係を築けるようにしている。担当職員と買い物に行き、本人こだわりの品物を継続して購入できるよう対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの病院は入居前と同じ病院にしている。ご家族や親戚、友人やご近所の知人まで多くの方が面会に来やすい雰囲気づくりも心掛けている。お盆や祭りの際は自宅に外泊される入居者もいる。	お盆や夏祭りなど、自宅に外泊・外出され継続的な交流ができるよう支援している。また昔から利用している美容室に行き続けている利用者もおられ、馴染みの人や場との関係が途切れないよう、一人ひとりの生活習慣を尊重している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人付き合いの苦手な方へ配慮し、関わりを持てるように職員が間に入っている。また席を考慮し憩いの場を持てるように支援している。入居者はすでに馴染みの関係ができています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても必要に応じて相談や支援を行っている。他の施設や病院の医療連携室に情報提供等を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向を伺い対応に努めている。日々の会話の中から欲しい物や食べたい物等を伺っている。意思を伝えにくい方はご家族に伺ったり相談をしている。ユニット会議で情報を共有し検討している。	入居前に利用者の思いや意向を本人・家族から情報を得て、入居後の生活に取り入れている。入居後においては日々の生活の中での気付いたことを「思い」や「意向」として、ユニット会議等で話し合い情報の共有に努めている。野菜作りや花、人形作りの得意な人、書の得意な人等、それぞれの力を発揮してもらうことで生活の意欲に繋げている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の担当ケアマネからの情報を基に、ご本人やご家族から話を伺っている。自宅も拝見させて頂き、家具の配置を参考にしていく。その後は必要時に、ご本人やご家族の面会時や電話などで伺っている。	これまでの生活歴や暮らし方等を担当ケアマネージャーからの情報を基に、管理者自らも自宅訪問を行い、今迄の暮らしぶりの把握に努めている。特に24時間シートの取り組みにより、「より良い暮らし」の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24Hシートに沿って一人ひとり、一日を過ごして頂いている。日々の健康状態(バイタル測定、排泄チェック、体重測定)や日常の関わりの中で得た情報は職員間で申し送り、記録に残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向に沿った介護計画書を作成するように努めている。計画作成担当者を中心に、職員と現状に合った対応であるか確認をしている。また状態変化の際は見直しを行っている。	本人、家族の意向を踏まえ、本人の現状等をユニット会議や担当職員の気付きなどから情報を得て、計画作成担当者は介護計画に反映させている。健康状態に変化が生じた時は、モニタリングにより現状に即した介護計画を作成している。それらはユニット会議の場や申し送り等で情報を共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録へ記入し、申し送り事項は日誌や連絡帳を活用し、情報共有している。気付いた点はその場で職員間で検討したり、ユニット会議で提案し、一人ひとりにあった対応ができるよう心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な病院受診や床屋等の送迎、または行事やイベントの参加等、必要時は事務職員から応援してもらう事がある。その時々に応じ、業務内容を変更し、臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りや行事に参加させて頂いている。保育園児や小中学生との交流や理髪店を利用させて頂いている。また災害時の支援体制ができており訓練等の際も協力を得て実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけの病院に受診されている。ご家族が受診に付き添う為、状態の変化や細かい病状はノートを利用し医師と連絡を取っている。緊急時は受診に付き添い状態説明し指示を受けている。	本人、家族の希望するかかりつけ医に家族が付き添う受診を基本としているが、緊急時は職員が対応している。受診時は個々に用意された受診ノートに本人の現状や容態等を記載している。医師からも職員に伝わるように所見の記載があり、家族からの報告と医師の記載内容による情報の共有が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師による医療連携を取っている。週1回、一人ずつ気になる症状や相談を記入し、看護師から対応や助言をもらっている。受診についても専門的なアドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院に必要な情報を提供している。入院中の様子をご家族から伺ったり、病院関係者から情報を頂いている。医師からの病状説明の際、許可があれば同席させて頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重篤化した場合、グループホームで出来る事と出来ない事を入居前に説明している。老衰が著しく進行してきた場合、早い段階で御家族と相談し、法人内の他事業所とも連携するようにしている。	「重度化・終末期対応指針」が整備されているため、それに基づいて入居契約時には事業所の基本的な考え方を家族・本人に伝えられている。急性期や医療連携が必要になった場合は、家族や医師・担当職員等と共にユニット会議等で検討しチームで取り組んでいる。重篤化の時は選択方法として、法人内での他事業所の協力等も視野に入れ安心を担保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿った対応を行うようにしている。急変時や事故対応の施設内研修や法人内研修に参加している。その後、ユニット会議で復命研修を行い、確認している。	想定される急変時に対応できるようにマニュアルが細かく整備されている。急変時の関わりや事故による対応については、法人内で繰り返し研修を実施し、参加できない職員については復命研修による共通意識を高めている。また、AEDは玄関に設置され、地域の人にも気付けるようにと大通りに面した箇所に設置表示されている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員が中心となり、災害時の避難訓練を計画、実行している。消火器、消火栓などの機器操作訓練や点検等を行い、災害時に対応できるようにしている。また地域と連携し、災害時には駆け付け人を要請している。	防災委員を中心に毎年避難訓練を実施している。春には新人に消火栓や消火器の設置場所を伝達するなどして災害時に備えている。また、11月には地域住民の「駆けつけ人」の参加も得て、総合訓練の実施が予定されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格や意思を尊重し、プライバシーに配慮した対応を心掛けている。相手の自尊心や周囲への影響を考慮し、言葉遣いには注意するよう心掛けている。	事業所では理念をより具体化し、短期目標等が職員の目につくよう記録シートに工夫がされており、スタッフ間に浸透している。利用者への言葉かけ等にも細心の注意を払うよう支援している。また個人情報の管理も徹底し、プライバシー確保についても全ての個室にトイレ、洗面台が設置され、本人の選択で鍵の使用も可能となっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で思いや希望を伺い、対応している。思いを表現出来ない方や遠慮する方もいるので、表情や行動にも注意し支援している。選択や自己決定出来る自由や喜びを感じてもらいたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	24Hシートに沿った対応をしている。またレク活動やイベント、祭りなどの声掛けはしているが、参加はご本人に決定して頂いている。ご本人のペースを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洗顔や整髪など、支援の必要な方には声掛けをさせて頂いている。入浴時は着たい服を選んで頂いている。ご本人の希望があれば理髪店へ外出したり、肌にあった洗顔料や化粧品を購入し、使用されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや刻み、配膳などをして頂いている。嫌いな食品は代替えを用意したり、食べやすいよう個々に形態を変えて提供している。祭りや行事は出前を取ったりして喜んで頂いている。	利用者の希望を聞きながら、その日、担当する職員により、献立が作られている。栄養面については併設施設の栄養士にチェックしてもらい、10品目がバランスよく摂れるように配慮された献立表となっている。自前の畑で利用者と共に育てた野菜が常に食卓を賑し、調理から配膳まで利用者と共に楽しんでいる。時には外食にも出かけ喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた食事内容を心掛けている。居室の冷蔵庫から自由に摂られている方もいる。水分摂取量が少ない方には好みの飲み物を用意している。食事摂取量等が少ない時は受診時に報告している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせ、声掛けや介助を行っている。口臭予防をされている方もいる。また、義歯ケースなど定期的に消毒し、衛生管理をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	居室にあるトイレを使用されている方が多い。下剤を服用している方や支援の必要な方に対して排泄チェック表を活用し排泄パターンの把握に努めている。プライバシーに配慮し声掛けや援助を行っている。	個々の居室のトイレを使用しているが利用者の身体状況によっては極力ベッドをトイレに近づけ自立を促している。対応が難しくなってきた利用者にはポータブルトイレの設置で移動の苦痛を軽減したり、可能な限り個別の排泄支援を大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維のある食品や乳製品を献立に取り入れたり、水分をこまめに取ったり軽体操も行っている。下剤を服用されている方は排便チェックを行い、医師の指示のもと下剤をコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間は決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて配慮している。季節に合ったお風呂を楽しんで頂けるよう、菖蒲湯や柚子湯などを行っている。	できるだけ利用者の希望や習慣に合わせて、入浴が実施できるように配慮しているが集中する時間帯もあり調整をしている。家庭的な個浴で、重度の利用者にはリフトの備え付けもあり、身体状況に合わせて対応可能となっている。脱衣場は床暖房になっているため、利用者にとっては安心して心地よい入浴ができる環境となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを尊重し、自由に昼寝や休息をとられている。使い慣れた寝具を使用されている方もいる。室温や照明調整を行ったり、シーツ交換も定期的に行い気持ち良く眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員の薬カードの最新版を綴り、効能や副作用など、常に確認できるようにしている。マニュアルに沿って服薬介助を行い事故の無いよう努めている。また受診後の薬の変更時は申し送り、情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、配膳、洗濯物干し、たたみ物、新聞取り等の日課を張り合いにされている方もいる。好みの飲み物を提供したり、談話を楽しまれる方もいる。買い物や地域の行事に参加したり、ドライブに出掛けたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に買い物や散髪に出掛けている。ご本人やご家族の希望を把握し、外食や外泊など自由にして頂いている。天気の良い日は散歩に出かけ、季節の花や田畑の見ながら気分転換を図っている。地域のイベントにも出来るだけ参加している。	入居前に利用者が関わっていた美容室やスーパー等で買い物をしたり、家族との突然の外出や外泊なども自由に受け入れ対応が出来ている。お天気の良い日は近隣を散歩して、季節を感じたり地域の行事等にも参加するなど、地域住民の一員としても受け入れられている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で財布の管理をされている方もおり、受診や買い物の際、ご本人から支払いをして頂いている。施設の自動販売機で自由に買い物をされている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がしたいと希望がある際は、施設の電話を使用して頂いている。携帯電話を所有されている方もいる。郵便物などは御本人にお渡ししている。希望があれば手紙やはがきを送る支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者同士が自由にくつろげるリビングをつくるように配慮している。季節の花や装飾等で心地よい空間になるよう工夫している。また、自然に囲まれた立地なので田畑や山の景色を眺めたり、日中は鳥の鳴き声などが聞こえる為、のどかな環境である。	ゆったりとした寛げる共用スペースは事業所内の高台に位置し、目の前に市街地が一望できる。また、室内の明るさも蛍光灯が不要なくらいに自然の明かりが射しこんでくる。随所に利用者の作品や花が心地良く飾られ、すっきりと整理された中にも温かさと癒される共用スペースとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下の窓側の椅子に腰をかけ、気の合う入居者と会話を楽しまれたり、時には一人でゆっくり過ごされたりなど自由に過ごして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から家具や寝具、趣味の道具など持ってこられている。配置についてはご家族とも相談しながら居心地の良い環境を整えている。	各居室にはトイレ・洗面台他整理ダンス等が設置されている。居室づくりには本人・家族に任せており、自宅での生活が再現できるように自由に愛着のある生活用品を配置することで、実に居心地の良い居室となっている。また、僅かな冷暖房の風を嫌う利用者には直接風が当たらない工夫を凝らすなど、利用者の居室環境を大切にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には物を置かないようにしている。居室やトイレ、浴室などに手すりがあり安全に移動が出来るようにしている。夜間はフットライトで足元を照らすようにしている。		